

Ⅱ

「育てる」編

主として「特別の教科 道徳」について

# 1 道徳科の基本事項

ここでは、まず、道徳科の基本的なことについて説明します。

## 道徳科の目標と学習

### 【道徳科の目標】

※括弧内は中学校

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

### 【道徳性を養うために行う道徳科における学習】

[解説 小p.17-p.20, 中p.15-p.17]

道徳科の目標には、道徳性を養うために必要な学習の過程が明示されています。

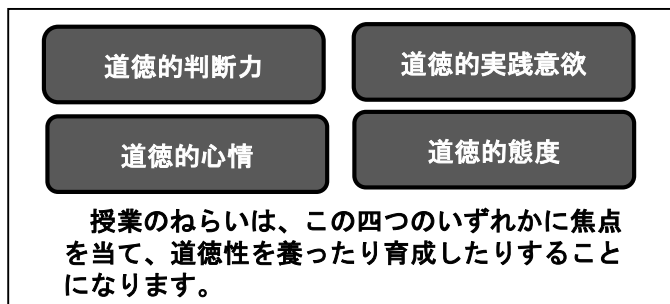
- ・ 道徳的諸価値についての理解を基に
- ・ 自己を見つめ
- ・ 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え
- ・ 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める

これらの学習を通して、次の四つの内面的資質を育てることが、道徳科の授業となります。

道徳的 判断力	それぞれの場面で善悪を判断する能力
道徳的 心情	道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情、人間としてよりよい生き方や善を志向する感情
道徳的 実践意欲	道徳的価値を実現しようとする意志の働き
道徳的 態度	道徳的行為への身構え

道徳性を構成する諸様相を養い、道徳的実践(行為、習慣)につなげていくことができるようにします。

## 【道徳科の授業のねらいと指導】



道徳性は、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であることから、授業でのねらいの文末表現が「～に気付く」、「～感じさせる」、「～理解させる」、「～できるようにする」とならないように注意しましょう。

ねらいの文末表現は、「～を養う」、「～を育てる」などとするとよいでしょう。



指導者は、ねらいの達成に向け、**明確な指導観**をもって授業を行うことが大切です。

## 明確な指導観とは・・・

【価値観】 ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもつ。

【児童生徒観】 明確な価値観を基に児童生徒にどのように指導し、何を学ぶのか、またその結果としてのよさや課題はどんなことが確認し、本時で学ばせたいことを明らかにする。

【教材観】 授業者の明確な価値観、児童生徒観をもとに、教材の活用の仕方を明らかにする。

児童生徒の姿を想像し、どのようなことを考えたいか、どのような発言を引き出したいか、などを考えましょう。

## 内容項目の四つの視点

### A 主として自分自身に関すること

自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図ることに关するもの

### B 主として人との関わりに関すること

自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図ることに关するもの

### 相互に深く関連

### C 主として集団や社会との関わりに関すること

自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合うことが求められている我が国に生きる日本人としての自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うことに关するもの

### D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めることに关するもの

A、B、C、Dの四つの視点に沿った内容項目があります。(価値項目とは言いません) 発達の段階に応じた内容になっています。  
[解説 小p. 26-p. 27, 中p. 24-p. 25]

- ・ 小学校のA「善悪の判断、自律、自由と責任」と「正直、誠実」は、中学校では「自主、自律、自由と責任」となる。
- ・ A「真理の探究」とD「よりよく生きる喜び」は、小学校第5学年及び第6学年から扱う。また、中学校ではA「真理の探究、創造」となる。
- ・ B「相互理解、寛容」は、小学校第3学年及び第4学年から扱う。
- ・ 小学校のC「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」は、中学校では「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」と「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」となる。 など

## 内容項目

学習指導要領の内容項目に記されている、「正直、誠実」や「感謝」などの表記は、その内容項目を概観するとともに、内容項目の全体像を把握することにも資するよう、その内容を端的に表す言葉を付記したものを見出しにしているものです。

つまり…

これは「内容を端的に表す言葉」であって…

【感謝】

〔第1学年及び第2学年〕

家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。

ここに書かれている文が「内容項目」です。

学習指導案などに内容項目を示す場合、「内容を端的に表す言葉」で書くことがありますが、各学年等で学習する内容をしっかりと確認することが大切です。



**内容を端的に表す言葉そのものを教え込んだり、知的な理解にのみとどまる指導になったりすることがないように十分留意する必要があります。**

道徳科の授業では、内容項目の扱いについて、実態に応じて指導することのほかに、次のようなことが求められています。

道徳的価値の自覚を深める指導を通して、児童生徒自らが振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりして、自己の生き方についての考えを深める学習ができるよう工夫すること。

内容項目は学年間を見通し、計画的・発展的な指導が行えるよう求められます。（第Ⅰ章を参照）

### こんな授業になっていませんか？

「B 礼儀」の内容で行った授業の振り返りで…

小学校2年生

「あいさつは明るく元気にすることが大切だと思ったので、できるように心がけたいと思います。」



小学校6年生

「あいさつをすることはとても大切なので、いつでも明るく大きな声でできるように心がけたいと思います。」



### 学年は上がっているのに、同じような考えしか出ない授業になっていませんか？

この例に関係する各学年の内容項目は、次のようになっています。

#### 「B 礼儀」の内容項目

小学校第1学年 及び第2学年	気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などを心掛けて、明るく接すること。
小学校第5学年 及び第6学年	時と場をわきまえて、礼儀正しくも心をもって接すること。

同じ「礼儀」に関することでも、  
発達の段階によって内容項目は変化します。

これらのことから、小学校6年生の段階では、どのようなことを考えさせなければならないのか、学級の実態を踏まえ、明確な指導観をもって授業の計画を立てることが重要になってきます。

## 各学校の重点的な指導の工夫

[解説 小p. 75, 中p. 73]

各学校の重点的指導に関わる内容項目に関しては、次のような工夫が考えられます。

年間授業時数を多く取る。

一つの内容項目を何回かに分けて指導する。

いくつかの内容項目を関連付けて指導する。

こうした工夫のほかに、ねらいや教材の深まりを図った多様な指導法を工夫するなど、重点とする内容項目について道徳的価値の理解が深まるよう工夫することも考えられます。

極端に内容項目が偏らないよう、全体のバランスに気を付けましょう。

## 教材整備や情報共有について

道徳科の授業で使用する様々な資料やワークシート等は、一ヶ所にまとめて保管するなど、繰り返し使えるよう工夫しましょう。

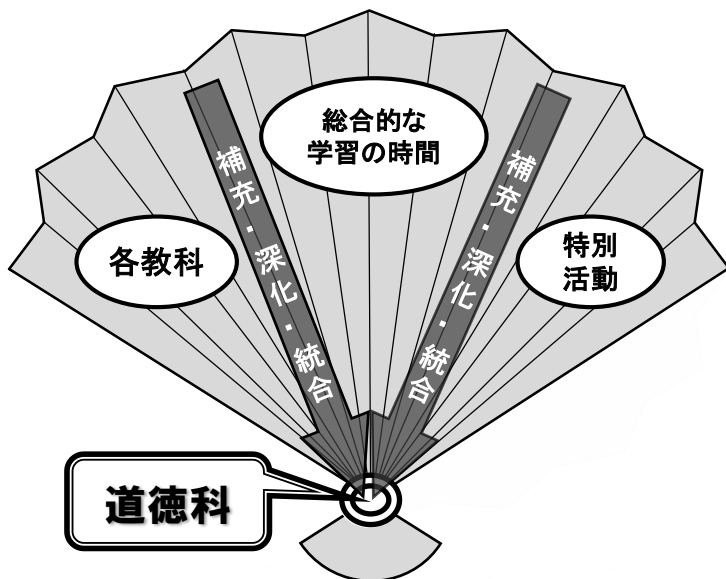
### 【県内の研究指定校等でみられた工夫の例】

- ・ 空き教室を「道徳の部屋」とし、年間指導計画をはじめ、授業で使ったペーパーや場面絵などを保管している。  
指導計画は、変更や改善点などを赤で書き入れ、次年度に生かせるようにしている。
- ・ 廊下に道徳の資料を入れる引き出しのボックスを設置し、同じ教材を扱う際、いつでもそこから教師が資料を取り出して、使えるようにしておく。

教材等を蓄積することで、よいものが引き継がれていきます。また、一人の成果を広めることにもつながります。

## 学校教育全体の要としての「道徳科」

### 学校の教育活動全体で行う道徳教育の「要」



各教科等で行う道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補う**補充**や、生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深める**深化**、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりする**統合**の役割を担っている。

[解説 小p. 89-p. 90, 中p. 89]

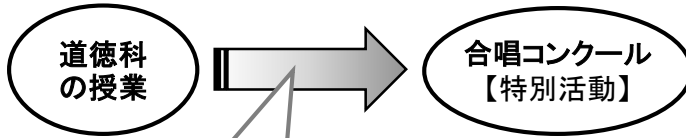


なるほど、例えば、運動会の後に、そこでの体験を基に「友情」など考えさせるということなのですね！

でも、事前に授業を行っても効果があると思うのですが…。



道徳科の特質を生かすために

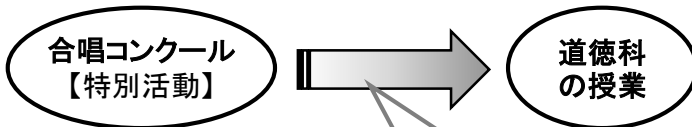


このような場合、道徳科の授業で次のような展開になっていませんか？

☆合唱コンクールに向け、決意表明をする終末。

「僕は、友だちと協力して合唱コンクールの練習をがんばっていきたいと思います！」など

**行動目標を考えることは道徳科の特質とはいえません。**



合唱コンクールでの体験をもとに、その活動だけでは十分深まらなかった道徳科の内容項目に関わることを、教材に触れながら、心情面を多面的、多角的に考えることが、**道徳科の特質を生かした授業**といえます。（この例の場合「深化」）

年間指導計画は、道徳科の特質でもある「補充」、「深化」、「統合」の役割を果たすことを前提に見直すことが大切です。

また、学校行事と関連させている場合は、実施時期が変わることがあるため、毎年見直す必要があります。

道徳科の授業は計画的に実施しましょう！

「教える育てる道徳教育」における、道徳科の授業は「育てる」という役割があることから、年間指導計画に沿って計画的に行う必要があります。

## こんなことはありませんか？

- A** どうも、このごろクラスの中に、友達をからかったり、心無いことを言ったりする様子がみられるなあ…。  
よし、今週の道徳科は、「A 個性の伸長」に関わる指導だけど、B 友情、信頼」の内容に変更しよう！

これでは、計画的な指導とはいえません。無計画に変更することで、年間の内容項目の取扱いが偏る可能性もあります。

この場合、「教える育てる道徳教育」の観点から、まずはからかったり、心無いことを言ったりする場面に遭遇したら、「教える」視点に立って、直接指導すべき事柄です。



- B** 地域の祭りを支えている高齢者の方のインタビューが記事になっているぞ！よし、明日の道徳科は「節度・節制」に関わる内容だけど、この記事を教材として「国や郷土を愛する態度」の内容で授業をしよう！



教材開発の観点としてはよいのですが、**A**と同じく計画的ではありません。また、新聞やテレビ番組等を授業で活用するときは、慎重に扱わなければなりません。

このような場合、内容が、一方的で偏った思考になっていないか、多面的・多角的に考えられる内容になっているかなども、吟味する必要があります。



## 2 道徳科の授業について

授業の大まかな流れの例

### 導 入

主題に対する興味や関心を高め学習意欲を喚起、  
動機付けを図る。

アンケートの利用、学校生活の振り返り場面など

### 展 開

【**価値理解**】教材をとおして道徳的価値の理解を図る。

児童生徒の実態や教材の特質を押さえた発問などをしながら進めていく。

#### 「**考え、議論する道徳**」

物事を多面的・多角的に考えられるように工夫する。

他者理解

人間理解

【**自己理解**】自分のこととして道徳的価値を捉える。

主題と関連して、これまでの自分を振り返り、  
自己を見つめたり自己の生き方を考えたりする。

### 終 末

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えを  
まとめたり、実現することのよさや難しさなどを確認する。

- ・ これからの生き方を考える、今後の発展につなぐ
- ・ 教師の説話などで思いを深める など

特に決められた形式はありません。「導入、展開、終末」のような形を基本としますが、教師の指導の意図や教材の効果的な活用などに合わせて弾力的に扱うなどの工夫をすることが大切です。

## 価値理解と自己理解について

道徳科の目標に、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ」とあることから、道徳科の授業の展開を考える際に、「道徳的諸価値について理解する（価値理解）」ことと、「自己を見つめる（自己理解）」ことを取り入れることを考えなければなりません。

〔解説 小p. 17-p. 18, 中p. 15-p. 16〕

### 【道徳的諸価値について理解する（価値理解）】

- 内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。
- 道徳的価値の意味を捉えること、その意味を明確にしていくこと。
- 実感を伴って道徳的価値のよさや大切さ、意義などを理解すること。  
※ 観念的な理解の学習に終始しないこと

### 【自己を見つめる（自己理解）】

- 人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりすること。
- 自分との関わり、これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深めること。
- 道徳的価値に基づいて内省すること。
- 真摯に自己と向き合い、一個のかけがえのない人格としてその在り方や生き方など自己理解を深めていくこと。

更に、「自己の生き方についての考えを深める」（中学校では「人間としての生き方を深める」）学習も求められていますが、この場合も自己理解が基盤となります。

まずは、価値理解と自己理解の意義をしっかりと押さえましょう。

時々、価値理解のみで終わってしまう授業も見受けられます。評価にも関わるところなので、この二つのことは、しっかり理解した上で授業を考えましょう。



## 考え、議論する道徳の実践に向けて

[総セ p.〇]

### こんな授業になっていませんか？

#### いわゆる読み物道徳

- 読み物教材の登場人物の心情理解に終始する授業

気持ちの変化を捉えることや、**人物などの気持ちに共感させる。**

改善

- 自分との関わりで道徳的価値を考える授業

自分自身を見つめ、**人物などが置かれている立場や状況に共感し**自分との関わりで気持ちを想像する。

#### いわゆる押し付け道徳

- 望ましいと思われること、決まりきったことを言わせたり、書かせたりする授業

何が大切か、どうすることが望ましいのかを求める。

改善

- 自分との関わりで多面的、多角的に考える授業

どのような理由で大切なのか、どうすることが考えられるのかを想像する。

#### 考える

主体的に自分との関わりで  
【主体的な学び】

#### 議論する

多様な考え方、感じ方と出会い交流する  
【対話的な学び】

考え、議論する道徳の授業を行うことで、  
自分の考え方、感じ方を、より明確にする。  
【深い学び】

「自分との関わりで」、「主体的に」、児童生徒が道徳的価値について考える授業をつくることを目指しましょう。

## 道徳科の指導

学習指導要領解説には、指導の基本方針として、次のような点が示されています。 [解説 小p. 78-80, 中p. 76-p. 78]

- (1) 道徳科の特質を理解する
- (2) (小)教師と生徒、児童生徒相互の信頼関係を基盤に置く  
(中)信頼関係や温かい人間関係を基盤に置く
- (3) 児童生徒の自覚を促す指導方法を工夫する
- (4) 児童生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫する
- (5) 問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする
- (6) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

ここでは、特に留意して欲しいことについて取り上げます。

### (小)教師と生徒、児童生徒相互の信頼関係を基盤に置く (中)信頼関係や温かい人間関係を基盤に置く

学習指導要領の趣旨に沿った授業を展開するためには、日常の学級経営の中で、児童生徒一人一人が自分の考え方や感じ方を伸び伸びと表現することができる雰囲気をつくるのが、何より大切です。

このことから、本県で推進している「**学業指導**」の充実を図ることはきわめて重要といえます。

日頃から、児童生徒同士が認め合える雰囲気や、何でも言えるような雰囲気はありますか？



#### 参照

「学業指導の充実に向けてー学業指導を全ての教職員が進めるためにー」  
(平成24年3月 栃木県教育委員会)

## 児童生徒の自覚を促す指導方法を工夫する

道徳的価値についての単なる知的理解に終始したり、行為そのものを指導したりする時間とならないよう注意しながら、児童生徒の自覚を促す指導方法を工夫する必要があります。

ねらいとする道徳的価値について、児童生徒自身がどのように捉え、どのような葛藤があるのか。

道徳的価値を実現することにどのような意味を見い出すことができるのか。

道徳科は、これらのことなどについて、道徳的価値を自分との関わりにおいて捉える時間であることを意識しましょう。

## 問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする

### 【道徳科における問題解決的な学習】

教材等から道徳的な問題を見つけ、その問題を道徳的価値との関係でどのように解決していくかということ、他者の意見を聞くなどして、多面的・多角的に考えたり、自分との関わりの中で考えたりします。

**児童生徒一人一人が課題に対する答えを導き出すことが大切**

### 【道徳的行為に関する体験的な学習】

授業の中で実際に具体的な道徳的行為をしてみたり、教材に登場する人物等の言動を即興的に演技してみたりするなど、疑似体験的な表現活動を取り入れることによって、道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的・多角的に考えたりします。

**行為や体験を行うことそのものが目的にならないよう注意**

このほかにも、ねらいや児童生徒の実態によって、例えば地域の方をゲストティーチャーに招くなど、多様な指導方法が考えられます。

### 3 道徳科における評価

児童（生徒）の学習の状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

〔解説 小p.107, 中p.109〕

道徳科が授業を通して育成を目指す資質・能力は…

よりよく生きるための基盤となる  
**道徳性を養うこと**

道徳的判断力  
道徳的心情  
道徳的实践意欲  
道徳的態度

道徳科の評価は、児童生徒の道徳性を評価するの？

道徳的価値が理解できたかを評価しません。

道徳性がどれだけ育ったのか、養われたかを評価しません。

#### 【道徳科の評価の基本的態度】

※括弧内は小学校

道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科、（外国語活動）総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うことがねらいである。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し、評価することが求められる。

〔解説 小p.109, 中p.111〕

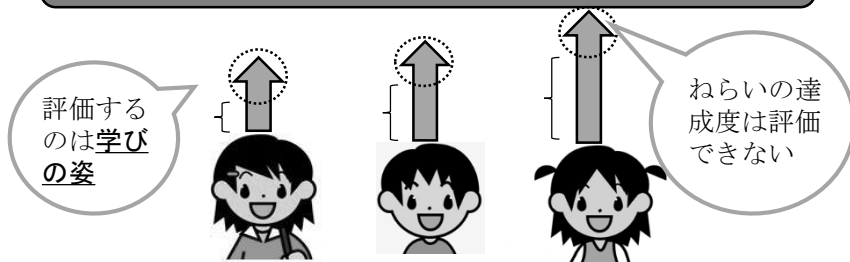


どんなことを評価するの？

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子（学びの姿）を継続的に把握し、評価します。

一人一人の成長を認め、励ます個人内評価

道徳科の授業のねらい  
（教師の明確な意図）



児童生徒のどのような学びの姿を見取るの？

重視することは、道徳科の目標に示されています。

- ・ 道徳的諸価値の理解に基づく学習活動において児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

例えば・・・

- ・ 道徳的価値のよさや大切さや難しさについて考えようとしている。
- ・ 道徳的価値について、一つの見方だけではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ・ 道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- ・ 授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方を生かそうとしている。 など

[解説 小p. 111, 中p. 113]

## 【道徳科の評価の在り方】

- ・ 数値による評価ではなく、**記述式**とすること。
- ・ 個々の内容項目ごとではなく、**大きくりなまとまり**を踏まえた評価とすること。
- ・ 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**として行うこと。
- ・ 学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方**へと発展しているか、道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているかといった点を重視すること。
- ・ 発達障害等のある児童生徒が抱える**学習上の困難さ**の状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと。
- ・ **調査書に記載せず**、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにすること。

〔解説 小p. 109-p. 112, 中p. 111-p. 114〕



評価の考え方を生かした道徳科の授業改善をすることで、児童生徒が心の視野を広げることができ、よりよく生きるための適切な判断ができるようになります。

また、自分自身との関わりで考えを深めることができれば、自分を客観視することができます。

### 道徳科の「見方・考え方」

多様な事象を、道徳的価値の理解を基に、自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること。

〔中央教育審議会（答申）（2017. 12. 21 文部科学省）より〕

どうやって見取るの？（評価のための具体的な例）

- ・ 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積する。
- ・ 児童生徒が道德性を養っていく課程での児童生徒自身のエピソードを累計する。
- ・ 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童生徒の学習状況や道德性に係る成長の様子を把握する。
- ・ 児童生徒が行う自己評価や相互評価を通して児童生徒のよい点や可能性に気付く。

〔解説 小p.112, 中p.114〕

記録物や実演自体を評価するものではありません！



学習課程を通じて、いかに道德的価値の理解を深めようとしていたか、自分との関わりで考えたかなどの成長の様子を見取るためのものであることに留意する必要があります。

【特に配慮すべきこと】

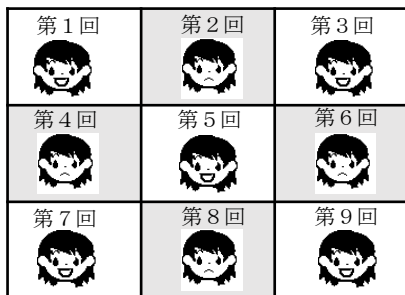
- ・ 授業中の発言がほとんどない。
- ・ 文章表現が得意ではない。
- ・ 表情にも表れにくい。

- ・ 授業中どのように見取っていくかを校内で検討しておく必要があります。
- ・ 授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集めておきましょう。

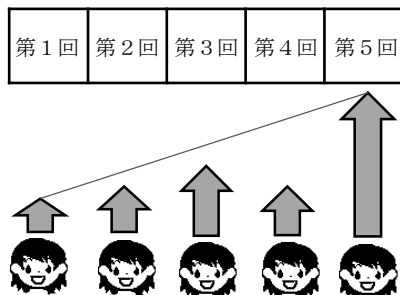


## どのように見取るの？

### 【見取りのイメージ】



授業における学習状況の中で、突出している児童生徒のよい学びの姿を評価します。



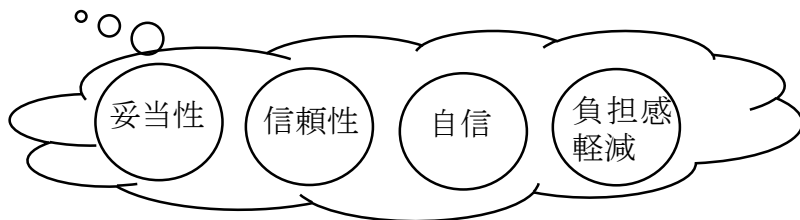
児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、認め励ます個人内評価をします。

評価は、たった1時間の授業でするものではありません。継続的に行うことが重要です。

また、個々の内容項目ごとに行うものでもありません。年間や学期などの、大きくりのまとまりの中で児童生徒の道徳性に係る成長の様子を見取ります。

### 学校として組織的・計画的に取り組みましょう。

- ・ 学年ごとに評価のために集める資料や評価方法を明確にしておきましょう。
- ・ 評価の結果について教師間で検討し、評価の視点などについて共通理解を図りましょう。
- ・ 評価に関する実践事例を蓄積し共有しましょう。



## 【通知表の所見への記入について】

次のような記述は、どのような長所や短所があるのでしょうか。

「雨の日のバス停留所」では、社会の中におけるきまりについて考え、これまでの自分の体験を想起しながら、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動することが大切であることに気付いていました。

## 《長所》

保護者にとって子供の学習状況がイメージしやすくなっています。

## 《短所》

継続的な授業の評価ではなく、一つの評価であり、成長の様子が感じ取れません。

道徳の教材で学びながら、登場人物に自分を置き換えて生活を振り返ったり、友達の考えを聞いて、一つのことを様々な見方で捉えたりして、今後のよりよい生き方について考えを深められるようになりました。

## 《長所》

継続的な授業により、児童生徒の成長の様子が見られます。

## 《短所》

どの児童生徒にも当てはまるような特徴が見えにくい評価になっています。

短所を改善するために、次のように記述することも考えられます。

## ● 記述の例（その1）

常に授業では、これまでの自分の体験を振り返り、今後に生かそうとしています。例えば「雨の日のバス停留所で」の授業では、迷惑を受けた体験を想起して、みんなが気持ちよく生活するためにも自分もマナーをまもっていかうと考えていました。

継続的な授業により、子供の成長の様子と、一つの授業の突出した姿を見とった具体的な様子を評価しています。

## ● 記述の例（その2）

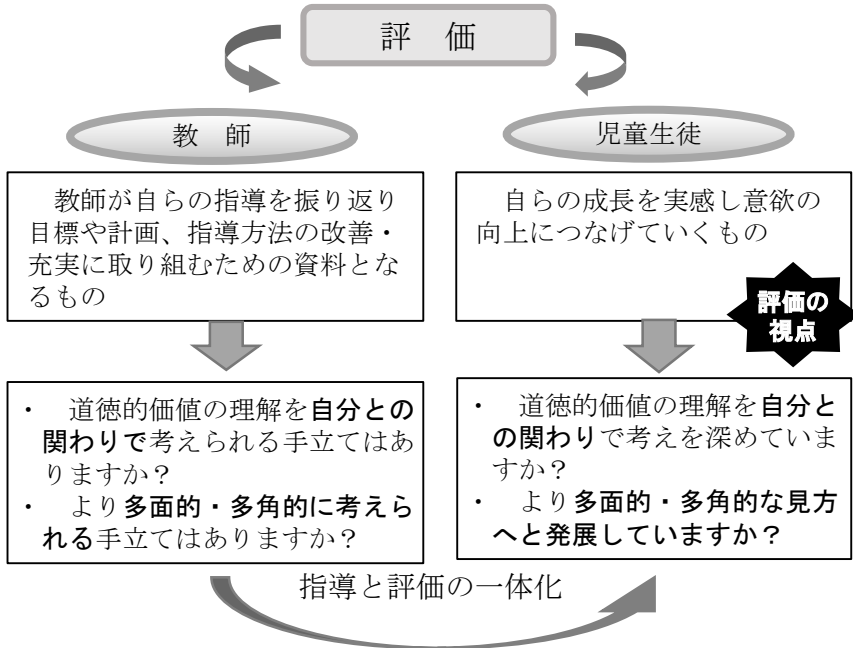
常に自分に厳しい目をもっていて、授業では自分を振り返り、反省する姿が見られました。しかし、それは今の自分はこうあるべきだという自分をしっかり見つめている表れであり、これからの道徳の授業で、どんな自分をつくりあげていくのか、とても楽しみにしています。

児童生徒の成長の様子を受け止め、認め励ます評価になっています。

## 【道徳科における評価の意義】

[解説 小p. 115-p. 116, 中p. 117-p. 118]

評価の考え方を踏まえて授業改善を行うことで学習が充実し道徳科の授業の実現に向かいます。



※ 道徳科の授業で見取るのは、児童生徒の学習状況であることから、「評価の観点」ではなく、「**評価の視点**」としています。

指導は、児童生徒が自らのよさや成長を実感できるように工夫するものであり、評価は児童生徒の成長を願って行われるものです。

評価は、指導に生かされ児童生徒の成長につながります。

児童生徒にとって心の成長につながるいちばんの評価は、信頼できる先生に認められることです。

